

平成31年度 施策評価シート

基本目標	V	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	520	生涯学習・スポーツ活動の輪が広がるまちをつくる
施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる
施策の目標	区民が、趣味や教養、文化活動など、さまざまな生涯学習活動に主体的に取り組む、生きがいのある生活を送っています。また、区民の間に生涯学習の輪が広がり、自身が習得した学習成果を地域活動に活かしています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「さまざまな学習活動に取り組んでいる」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	50.0%				40.0%					40.2%
実績	38.1%									
指標名	「身近な場所で学習ができる」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	44.0%				53.5%					60.0%
実績	52.0%									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
「さまざまな学習活動に取り組んでいる」区民の割合について、実績値の経年比較で平成27年より約28ポイント増加しているが、目標値は下回っており、平成28年度からの新基本計画において実績値を踏まえた目標値を設定している。 区民が主体的に生涯学習や文化活動等に取り組むことは、生きがいづくりや地域の魅力の再認識につながっていく。そのためには、区や、区が誘致する大学、民間事業者等がいかに区民に対して活動の場や機会を提供し、周知を行うかが重要である。	H28	109,036
	H29	437,851
	H30	15,026

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	千葉大学やその他の大学との連携に基づき、生涯学習、文化活動の場や機会を提供できるようになり、成果が期待できる。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
旧中小企業センターを活用し、千葉大学がキャンパス展開するにあたって、区民の学習機会の提供、学校教育への支援、中小企業のものづくりコラボレーションなど、包括的提携に基づく連携事業を積極的に実施する必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
千葉大学やその他の（誘致）大学と連携を図り、知の拠点としての大学のあるまちづくりを推進する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳 出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳 出 総 額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	大学誘致推進事業	15,026	11,812	26,838	区民がさまざまな生涯学習活動に取り組むことで、生きがいのある生活を送り、また地域活動に活かしていくことを目標としている。この一助として、大学と地域・地元企業等との事業連携を行うことで、まちづくりや区民の生涯学習・文化活動等の促進を図っていく。	-	改善・見直し
						0	平成30年度
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

平成31年度 事務事業評価シート

施 策	521 区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる				部内優先順位
事 業 名	大学誘致推進事業				1
目 的	旧西吾嬭小学校及び旧曳舟中学校跡地(以下「学校跡地」)及び旧すみだ中小企業センターに大学を誘致することにより、若者の流れを呼び込み、地域経済の活性化や地域の賑わいを創出する。また、大学と連携した公開講座の実施や大学図書館の区民開放等の実施により、区民の生涯学習や文化活動等に対する意欲を向上させる。				主管課・係（担当）
					行政経営担当
					03-5608-6230
対 象 者	生涯学習や文化活動に関心のある区民、プログラミング教育や英語教育が必修化する区内小中学生				
根拠法令 関連計画	なし				
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	2名
事業内容	1 千葉大学関係事務(令和3年4月「デザイン・建築スクール」開設予定) 【ハード】 ①旧すみだ中小企業センターの施設維持管理 ②施設大規模改修工事に向けた設計内容の大学等との調整 【ソフト】 ①大学と区と事業者のマッチング(連携事業) ②スクール開設に向けたPR 2 i専門職大学(仮称・認可申請中)関係事務(令和2年4月開学予定) 【ハード】 ①土地賃貸借契約に係る各種事務 ②大学認可に向けた協力体制の確保 【ソフト】 ①大学・区・事業者等のマッチング(連携事業) ②大学開学に向けたPR 3 大学整備用地全体の調整 各大学・あずま百樹園・将来施設用地・子育てひろば等の整備に伴う全体調整事務 4 将来施設用地の誘致推進 現在空き地となっている将来施設用地の誘致実現に向けた交渉・調整等				
経 過	開始年度	平成20年度～	終了予定	未定	
	平成20年:第4回定例会(企画総務委員会)において、「4年制の総合大学」を誘致することを正式に表明 平成23年:学校跡地に対する大学誘致の公募を実施→「該当校なし」との結果 平成24年～:関東近郊の大学に対し、進出意向のアンケートを実施 平成29年3月:国立大学法人千葉大学と「包括的連携に関する協定」を締結。令和3年(2021年)4月に、旧すみだ中小企業センターの建物に「デザイン・建築スクール」を開設(予定) 平成29年12月:学校法人電子学園と「包括的連携に関する協定」を締結。令和2年(2020年)4月に、学校跡地北側に「i専門職大学(仮称・認可申請中)」を開学(予定) 平成30年～:「旧すみだ中小企業センター改修基本・実施・解体設計」の実施				
議会質問 の 状 況	平成29年3月(企画総務委員会) (しもむら委員):これまで学校跡地に大学を誘致するとしていたので、地元からは「建物を解体した後は、跡地は千葉大学が使用するのでは間違いないか」との声も挙がっている。 (渡辺参事):千葉大学が将来的な展望や跡地の活用方法についてどのように考えているのかを基本に据えたい。仮に千葉大学がそこまでの規模を要しないとのことであるならば、他大学も含めて協議していく。 平成31年3月(企画総務委員会) (沖山委員):今後、どのように大学との連携、つながりを進めていくのか。 (山本区長):大学に絡んだ地域の事業者も視野に入れて、両大学にも地域との仕事について、いろいろな形で対応してもらえるように依頼をしていく。				
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) ●他区の状況 ・地方大学振興法(23区の大学の定員増を10年間抑制等)の成立(H30.6月公布) →専門職大学については、R6.3月までは経過措置として23区内に設置可能 ・認可申請中(令和2年開学)の都内の主な専門職大学 →東京専門職大学(江東区)・東京国際工科専門職大学(新宿区)・東京医療専門職大学(新宿区) ●年間スケジュール ・千葉大学・・・旧中小企業センター大規模改修工事開始(R2.1月～) ・i専門職大学・・・R2.4月開学予定 ●関連部署 ・営繕課(設計・施工に係る執行委任)				

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算現額（事業費）		8,294	7,967	117,278	439,989	54,129	57,942
決算額（31年度は見込み）		7,671	6,784	109,036	437,851	15,026	57,838
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		7,671	6,784	109,036	437,851	15,026	57,838
執行率（％）		92.5%	85.2%	93.0%	99.5%	27.8%	99.8%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			平成31年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	旧すみだ中小企業センター公共料金	4,673	需用費	旧すみだ中小企業センター公共料金	1,916	需用費	旧すみだ中小企業センター公共料金等	1,644
委託料（施設管理委託料）	旧すみだ中小企業センター維持管理	2,005	委託料（施設管理委託料）	旧すみだ中小企業センター維持管理	1,600	委託料（建設委託料）	旧すみだ中小企業センター工事関連	30,000
委託料（その他）	旧すみだ中小企業センター改修計画等	10,044	委託料（調査・研究委託料）	地歴調査等	497	委託料（施設管理委託料）	旧すみだ中小企業センター維持管理	1,255
使用料及び賃借料	旧すみだ中小企業センター維持管理	2,381	委託料（その他）	経済波及効果分析等	7,580	委託料（その他）	大学との事業連携関連等	15,000
工事請負費	旧西番堀小学校等解体工事費等	418,271	使用料及び賃借料	旧すみだ中小企業センター維持管理	2,381			
事業の成果	手 段 に 対 する 指 標 （ 活 動 指 標 ）	指 標	誘致を決定した大学数				単 位	校
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		－	R7	目標	1	－	－	－
				実績	1	1	0	－
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 的 に 対 する 指 標 （ 成 果 指 標 ）	目標	－	－	－	－	－	－
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		国立大学法人千葉大学と平成29年3月に、学校法人電子学園と同年12月に「包括的連携に関する協定」を締結したが、それ以降も複数の大学や学校から問合せが来ている。現在、将来活用用地（学校跡地南側）に更なる大学の誘致を想定しているため、活動指標とした。						
		指 標	区・地域と大学の連携活動数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		20	37	目標	－	1	3	5
				実績	0	6	7	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	7	10	12	14	17	20
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		生涯学習や文化活動、生きがいづくり等、各方面への影響を網羅した成果指標の設定は困難であるため、以上を成果指標とする。						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	今後、i専門職大学（仮称・認可申請中）の設置認可に関する答申や、旧すみだ中小企業センター大規模改修工事等進出を予定している大学のスケジュール管理や、将来活用用地における更なる大学の誘致の実現、事業連携、大学と事業者等とのマッチング等に向け、協議・検討を行う必要がある。

課題・問題点
・将来活用用地に進出する大学の決定 ・地域と大学の連携・マッチング ・進出を決定している各大学の開設・開学に向けたスケジュール管理